

考える力を身につける

理学療法学科准教授

シノハラ
篠原

ヒロシ
博

「考える力を身につける」ということを強く意識し始めたのは大学教員になってからだと思う。日々の教育現場で「もっと自分で考えてみよう」、「自分の言葉で表現してみよう」という投げかけを学生にすることが多かったためだ。その一方でどのようにしたら短期間で考える力や表現力が身につくのかという点は明確な答えを得ていない。私自身も学生の頃は同じような投げかけをされ、「ではどのようにしたら良いのか?」と思ったものだ。短期的ではなく長期的に身につけるとするならば読書が一つの答えになりうると考えている。



私が 25 歳頃、友人に薦められた伊坂幸太郎の小説にハマって以来読書が趣味となった。それまで全く読書をしていなかったわけではないが、あれ程早くページをめくりたいという衝動にかられたことはなかった。読書を趣味・習慣とするには少々遅いかもしれないが、日々本を読むことである変化に気がついた。私自身の会話中の語彙と表現方法の変化である。今まで使わなかった単語が自然と出てくることに驚き、言葉にすることが難しかった自分自身のモヤモヤとした感情を表現できるようになったことに喜びを覚えた。しばらく読書をやめると元の語彙力が乏しい自分自身に戻っていく感覚もあり、読書は知識を得ると共に自分自身を育てるものだということを実感することができた。

最近忙しくなってきたことを機にどこでも読むことができる電子書籍リーダーを使用することがめっぽう多い。文庫本のページを捲る感触は捨て難いが、電子書籍にメリットを感じる。「(紙の)本を読む」というある種の普遍的な行為までもが進化していることに驚き、自分自身もそれに伴い成長できることを嬉しく思う。表題の「考える力を身につける」ことへの最短ルートは分からないが、長期的に見れば読書は最適なルートだと感じている。とはいえ他の方法でも良いので学生のうちに自身に合った方法を見つけることをお勧めする。皆さんの成長を願う一方で私自身が成長する方法も貪欲に模索し続けたい。

